

花水木

40年目の赤二小

校長 清水 励

今年の梅雨は、気温や雨量とも「梅雨らしい梅雨」となっています。雨の日が続くと、子供たちは外で活動できないので、やや「学校での楽しみ」が半減してしまうようです。校庭使用不可を伝える朝礼台上の赤いカラーコーンを、休み時間前に片付けると「やったー！」と元気な声とともに子供たちが校庭に駆け出してきます。7月中旬にはスパッと「梅雨明け」をしてくれることを望みましょう。

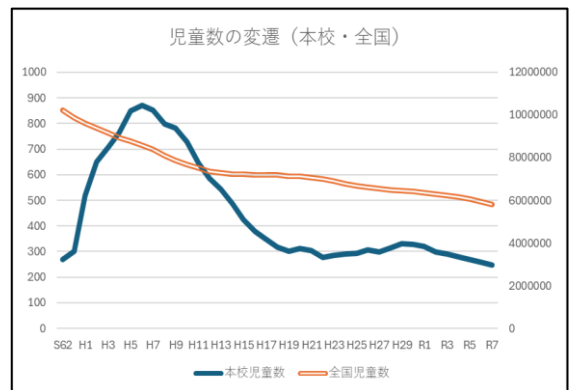
さて、6月27日は「40年目の開校記念日」でした。あいにく土曜日となってしまったため、「せっかくの開校記念日が…。」と、ちょっと悲しんでいるのは、子供たちだけではないかもしれません…。

本校は今から40年前、昭和62年（1987年）に、赤見台第一小学校から分離して開校しました。鴻巣市内では鴻巣中央小学校に次いで2番目に新しい学校となります。



開校当時の校舎

開校当時の児童数は、268名で、今とさほど変わらぬ児童数でしたが、その後数年間は増え続けて、一番多かった時には871名（平成6年）もの子供たちが通っていました。今の3.6倍の児童がこの校舎で学んでいたことになりま。本校の児童数推移を全国児童数推移と比較してみると、緩やかに減少している全国児童数に比べると、地域性もあってか、本校の増減の幅はやや大きいようです。



本校の校歌は、間中忠男氏（初代校長）作詞、鴻巣中学校卒業の保坂千里氏作曲の校歌で、開校初年度に作られました。校歌には「赤見台を故郷として育つ子供たちに、父と母を大地とし、心と視野の広い人になってほしい」という願いが込められています。



また、本校の校章は、平田胤夫（ひらたたねお）氏が、校木である「はなみずき」を基調としてデザイン制作されました。励まし合う優しさを「はなみずき」の花弁として表し、学び鍛えることにより健やかに成長していく赤二小の子供たちをイメージして作られたとのこと。これまで数回、「この地域は埴輪とかが出土したのですか？」と、校章を見た保護者の方に尋ねられたことがあります。確かに、パッと見たところ、埴輪や土偶の顔にも見えるので、そう思われる方は少なくないようです。（実は私もでした…）

学校教育目標にある「かがやけ笑顔」は、平成14年、当時の教頭先生だった高野和夫氏の発案により、全校児童から言葉を募集して決められた行動目標です。私も「子供たちの笑顔に勝るものはない」と思っているので、「かがやけ笑顔」はとても大好きなフレーズです。

これからも、子供たちのキラキラした輝く笑顔が溢れる赤見台第二小学校であることを目指して、保護者・地域の方々の御理解と御協力をいただきながら、教育活動を進めてまいります。